様式第2号

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録票（基本情報）

260　　令和８年６月10日現在

①	ふりがな 氏名	すずき　かつや 鈴木　克哉
④ 所属先	所属先名称	特定非営利活動法人里地里山問題研究所
	役職名	代表理事
⑥	専門分野 ※該当に✓を記入	☑ 捕獲手法　☑ 侵入防止技術　☑ 周辺環境整備　☑ 地域合意形成　☑ データに基づく計画立案 ☑ 野生動物管理（生息調査含む）　☑ ICT機器の活用（捕獲通知等）　☐ 処理（焼却・減容化） ☐ その他（　　）
⑦	対象鳥獣 ※該当に✓を記入	☑ シカ　☑ イノシシ　☑ サル　☑ クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ☐ ハクビシン　☐ アライグマ　☐ アナグマ ☐ カラス　☐ カモ　☐ ヒヨドリ　☐ スズメ　☐ ムクドリ ☐ その他鳥獣（　　）
⑧	対応可能地域 ※該当に✓を記入	☑ 全国　☐ 北海道　☐ 東北　☐ 関東　☐ 北陸　☐ 東海 ☐ 近畿　☐ 中国　☐ 四国　☐ 九州　☐ 沖縄 ☐ その他※特定の都道府県、地域（
⑨	免許、資格及び登録状況 ※該当に✓を記入	☑ 狩猟免許　（ 銃：取得年 H　20年　、　わな： H　20年 ） ☐ 鳥獣プロデータバンク　（☐ 鳥獣保護管理プランナー　☐ 鳥獣保護管理捕獲コーディネーター　☐ 鳥獣保護管理調査コーディネーター） ☐ 鳥獣管理士（　　）級 ☐ ジビエ利活用コーディネーター ☐ その他（　　）

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録票（活動実績）

260　　令和８年６月10日現在

⑫活動実績	
活動期間	①2008年1月～2015年3月　②2015年4月～現在
地域	①兵庫県　②兵庫県丹波篠山市
対策の種類 ※該当に✓を記入	☑ 捕獲手法　☑ 侵入防止技術　☑ 周辺環境整備　☑ 地域合意形成　☐ データに基づく計画立案 ☑ 野生動物管理（生息調査含む）　☑ ICT機器の活用（捕獲通知等）　☐ 処理（焼却・減容化） ☑ その他（　獣害をきっかけにした地域活性化（獣がい対策）　）
対象獣種 ※該当に✓を記入	☑ シカ　☑ イノシシ　☑ サル　☐ クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ☐ ハクビシン　☑ アライグマ　☐ アナグマ ☐ カラス　☑ カモ　☐ ヒヨドリ　☐ スズメ　☐ ムクドリ ☐ その他鳥獣（　　）
活動の内容	2008年1月～2015年3月 兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センターにおいて、兵庫県のニホンザル管理を担当し、行政機関と連携した効果的な被害管理手法の開発と住民支援体制の整備に取り組む。兵庫県全体で年間約2000万円程度発生していたニホンザルの被害を１/２以下（約800万円）に減少。 2015年4月～2021年3月 丹波篠山市農都創造部森づくり課で「獣害に強い集落づくり支援員」（非常勤職員）として勤務。獣害対策自立度評価に基づいて篠山市内の集落の獣害対策の技術指導や体制整備にむけた助言等を行う。丹波篠山市内のサル5群の位置情報を共有するシステム開発とそれに基づく集落主体の追い払い体制の推進に尽力し、2017年度に全国鳥獣被害対策優良活動表彰の「農林水産大臣賞　被害防止部門（団体）」を受賞。 2015年5月～現在 特定非営利活動法人里地里山問題研究所（さともん）を丹波篠山市に設立。「獣がい対策で農村の未来を創る」を理念に、行政や関係団体と連携して人口減少・高齢化する農村の獣害対策を支援しながら、多様な人材が参画して地域を元気にする前向きな「獣がい対策」の推進をしている。 例えば都市住民と過疎集落の交流によって耕作放棄地を解消し、地域課題の解決と活性化を目指す企画で関係人口の創出・拡大に取り組み、年間約1,200名（延べ）を担い手不足に悩む地域に呼び込む。そのほか、3度クラウドファンディングを実施、いずれも目標金額の120-150%の資金調達（合計約350万円）に成功し、地域の獣がい対策を支援している。 また、丹波篠山市畑地区（みたけの里づくり協議会）の多様な人材参画で地域を元気にする獣がい対策の取り組みを支援し、2025年度に全国鳥獣被害対策優良活動表彰の「農林水産大臣賞　被害防止部門（団体）」を受賞。 委員・研修会講師等 環境省ニホンザル保護管理検討委員、「野生生物と社会」学会 理事（2011～2016年度）、「野生生物と社会」学会 事務局長（2014～2016年度）、日本哺乳類学会保護管理専門委員（～2016年9月）、日本哺乳類学会ニホンザル保護管理作業部会長（～2016年9月）、兵庫県関係人口案内所ふるさと応援コーディネーター（2021年度～）、総務省地域力創造アドバイザー（2023～2025年度）